

第904回

定例教育委員会会議録

日 時 令和4年10月31日（月）15：00～

場 所 益田市役所第一会議室

益田市教育委員会

第904回 教育委員会定例会

招集年月日 令和4年10月31日（月）15：00～

招集場所 益田市役所第一会議室

議事日程

第1 会議録の承認について

第2 教育長報告

第3 議題

報第26号 史跡スクモ塚古墳の発掘調査結果について

報第27号 旧島田家活用に伴う益田公民館機能移設について

第4 その他

(1) 情報提供

第11回「いのち・愛・人権」展の開催について

(2) その他

出席者

教育委員会	教 育 長	高 市 和 則
	教 育 委 員	梅 津 富美子
	教 育 委 員	中 野 純
	教 育 委 員	大 庭 隆 志
	教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯

事務局職員	教 育 部 長	長 嶺 勝 良
	ひとづくり推進監	大 畑 伸 幸
	教育総務課長	志田原 涉
	学校教育課長	田 原 正 紀
	学校教育課参事	松 元 善 生
	美都分室長	田 中 一 史
	匹見分室長	齋 藤 一 臣
	人権・同和教育推進室	岡 崎 勝
	教育総務課長補佐	齋 藤 勝 義
	教育総務課主事	三 浦 菜々子

高市教育長 ただいまより第904回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
す。
それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

高市教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

高市教育長 次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況でございます。

まず、10月1日でございます。萩・石見空港マラソン全国大会サポートスタッフ説明会がございました。こちらにつきましては、後ほどまた出てきますけれども、10月16日のマラソンの事前の説明会でした。こちらは運営に関して多くのボランティアの方のご協力が必要だということで、今年は何人の方が参加されたのでしょうか。

大畑推進監 680名です。

高市教育長 680人のスタッフの方にボランティアでご協力をいただきました。その説明会に出席をさせていただきました。

続きまして、10月3日は益田東中学校、5日に高津中学校、12日に匹見小・中学校を訪問させていただいたところでございます。

先ほどご紹介いたしました、16日は、第15回萩・石見空港マラソン全国大会がございました。こちらにつきましては、参加者が全体で1900名ほどでした。

今回は、去年よりも規制緩和をいたしまして、全国各地から多くの方に参加をいただき、当日は万葉公園がスタート兼ゴールの地点になりましたが、今年はそのお土産や飲食できるブースも設けました。だんだん以前の形に近くなってきたと考えております。私は、その中でもファミリーの部についてスターターをさせていただく形で参加をしてみたいと思っておりました。こちらのほうでは、約100組のご家族の方が参加をされました。

続きまして、17日に安田小学校、18日に東陽中学校を訪問したところでございます。

続きまして、24日には小野中学校、25日に豊川小学校、27日に中西中学校に訪問させていただきました。

10月28日でございます。こちら、まずスクモ塚古墳の発掘調

査の記者発表会を行いました。既に先生方皆様ご承知のとおり、もう報道等で流れていますけれども、前方後円墳ということになりまして、墳形がはっきりしました。サイズについては県内最大、山陰でも最大級の大きなものであります。また、造られた時期については、当初想定されていたものよりも若干早まりまして、4世紀後葉だということが分かりました。こちらにつきましては、本日、議題の報告のところで担当より詳細にご説明をさせていただければと思っております。

その後ですけれども、市制70周年を記念いたしまして、雪舟の郷記念館において特別展「京都・室町幕府と益田氏」の内覧会が開催をされました。こちらにつきましては、今年、千葉にあります歴史民俗博物館といろいろと中世の発表、研究の協働をしてきたご縁もありまして、歴史民俗博物館から洛中洛外図をお借りすることができました。こちらの洛中洛外図ですが、歴史民俗博物館は中世の洛中洛外図をどうも2種類お持ちのようなのですが、今現存している最古の洛中洛外図をお借りして展示をさせていただいています。それと併せて足利義輝像も展示させていただいています。これも重要文化財です。足利将軍の13代目の方で、どうも益田氏と非常に強いつながりをお持ちだということ。ぜひ先生方をはじめ皆様、洛中洛外図はよく教科書に載っていて、見覚えがあるような図なので、ご興味があればぜひご覧になっていただければありがたいと思います。

続きまして、10月29日でございます。こちら、匹見健康フェスティバル2022ですが、コロナ前では匹見峡紅葉マラソンという形で開催されていた匹見で歴史のあるマラソンがありましたが、地域の方々やボランティアの高齢化や協力いただける人が減ってきているため、やり方を見直す必要があり検討されてきたところです。しかしながら、匹見の方々が健康について見直し、考え直す機会になっているという点、またその地域の方々が大会をつくっていかうという趣旨から、今年から匹見健康フェスティバルという形に変更をして実施をしたところでございます。こちらにつきましては、当日、学校の先生や児童・生徒、また地域の方々、約20名以上の方が出席をされまして、健康診断やグラウンドゴルフ、ペタンク、モルックのような競技を行いました。こちらの中でも、私と実際に行った志田原課長でペタンクと一緒に地域の方々と1試合行って、みんな健康を見直し、かつ楽しく体を動かせる非常にいい機会になったと思っているところでございます。

私からの報告は以上でございます。

何か今申し上げたことに関しましてご質問、コメント等ございましたらお願いいたします。

中野委員

失礼します。16日の萩・石見空港マラソンですが、私も見学に行きました。県外の方も含めて大勢の方が、お越しになられてにぎわっておりました。加えて、スポーツクラブの中学生の子どもたちや、それから市内の中学生のボランティアなど、本当にそういった大きな力がないとできないので、非常に子どもたちが支えていて開催できた大会であったと思えました。この場をお借りしますが、子供たちに対してお礼を申し上げてコメントとさせていただきたいと思えます。ありがとうございます。

高市教育長

ありがとうございます。今、中野委員からもご案内いただいたところですが、あと益田東高校の生徒さんや明誠高校の生徒さんも非常に協力をしてもらっており、若い力がないと難しい大会だということ子どもたちが分かってくれて、献身的に協力いただけているのは非常にありがたいことだと思っております。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

第3 議題

○報第26号 史跡スクモ塚古墳の発掘調査結果について

高市教育長

本日は2件の報告事項となっております。

まず初めに報第26号史跡スクモ塚古墳の発掘調査結果についてから進めさせていただければと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

山本課長

失礼します。それでは、私のほうから説明をさせていただきたいと思っております。

委員の皆さんのお手元にございます資料は、報道発表資料そのままの内容となっておりますので、概略を説明させていただきます。

まず、1ページをご覧ください。

一番上、調査の概要でございます。遺跡名は、スクモ塚古墳であります。昭和16年12月13日、国の史跡に指定をされた遺跡です。久城町にございます。目的については、墳形や築造年代等々を確認するために、平成28年度から本年度までの7年間、調査をしてまいりました。その結果の報道を行ったところでございます。

この遺跡の概要と課題の整理というところをご覧くださいなのですが、実は昭和16年の国指定の前、特に昭和の初期頃には前方後円墳という認識も実はあったようです。その後、昭和1

6年に国の史跡になっているのですが、そのときの見解といたしましては、造り出しつきの円墳といった形で国の指定を受けております。ただし、指定範囲そのものにつきましては、前方後円墳の形で指定を受けています。その当時も両方の可能性を模索されたのだと思っております。それ以降も、円墳だけの説、円墳と方墳が共存する説、そして前方後円墳説という3つの説の中で、現在に至ってもなおこの墳形につきましては長らく未確定のままでありまして、その解明が待たれている状況にあったようです。それぞれの説の主な根拠については下に書いてありますので、お読み取りいただければと思います。

次のページ、2ページをご覧ください。

今までの調査結果につきまして、一覧表にいたしました。昭和61年度は個人住宅を掘っておりますので、28年度から令和4年度までのところで、調査区のトレンチと言っておりますけど、トレンチにそれぞれ番号を振っております。25番まで振っております。右側には、面積や調査で分かった所見も一応載せております。

この表に対応いたしますのが3ページの下側の左の図の2番の調査区配置図です。少し小さいですが、ここにそれぞれトレンチ等を設置した状況を表示しております、その表に対応する番号をそのまま照合できるように配置してございます。

資料の中には、写真もつけてあります。例えば平成29年度の7トレンチのほうですけども、埴輪列の状況につきましては11ページの写真の7に載せております。また例えば令和元年度のトレンチ12におきましては、これは9ページの写真の4番に溝状遺構の状況を表示しております。また11ページの写真8におきましては、これは盛土の状況です。土層の断面図等々も示してございますので、お読み取りいただければと思います。その中で、令和元年度のAからCというところがございまして、実はこれは地中レーダーの探査状況の写真を載せております。これが8ページの写真の2となります。

ここは少し分かりにくいので説明をさせていただきます。

2つ提示しております、そのうちの左側が後円部の墳頂、(A)と書いてございます。白っぽいような反応が出ていると思うのですが、こちらのほうが約1メートル下からの電波の反射状況を示しております。これは右の前方部についても同様でございます。これから何が分かるかということですが、約25センチから50センチ程度の石材のような反応が見られることから、埋葬施設の可能性がうかがえるといった調査内容となっております。実際にこの墳頂部

につきましては発掘調査をしていませんので、こうした地中レーダーを活用してのデータを取っています。

次に、3ページ目の(2) 調査結果の総括というところでございます。

まず、墳形につきましては、先ほど教育長が申しあげましたように前方後円墳となります。こちらにつきましては、前方後円墳の形に地山を削り出した上に盛土で造成を行っておりまして、前方後円墳として築造されたことが確認できました。また、前方部の西側面の形状から、前方部の先端に向かってやや開く前方後円墳の形に復元できました。

規模につきましては、図3と図4、こちらのほうを参照していただきながら聞いていただきたいのですが、復元する墳丘の長さは約96メートルとなります。これは、県内で最大の長さ、大きさとなります。また、ここで言う山陰は島根県と鳥取県の2県ですが、山陰でも最大級という調査結果となりました。ちなみに、報道でもございましたけども、それまで島根県の最大の古墳とされておりましたのが松江市の山代二子塚古墳というところがございまして、これは、後期の前方後方墳です。前も後ろも方墳です。これが約94メートル。そして、同じ前方後円墳では、出雲市に今市大念寺古墳というのがございます。こちらが約92メートルというところになります。スクモ塚が96メートルですので、いずれにしても若干上回っている結果となりました。

そして、築造年代が4世紀の後葉です。実は、今までは5世紀代、大体中期頃の古墳とされていたのですが、特に埴輪の検証から時期が遡りました。4世紀の後葉ということになります。また埴輪や葺石などの溝状遺構が確認をされました。

また、埴輪につきましては2種類確認されました。円筒型の土管のような埴輪と、また土管から頂上に、上に開くようなアサガオ型の埴輪というのが確認されました。

構造につきましては、後円部は2段、前方部は1段ないしは2段と書いております。テラス部分が回っているか否かという部分が不明ですので、こういう表現にしております。前方部に方形壇というのがついております。これは、四角い長方形のものをつけております。図3で示しましたが、方形壇(a)という部分になります。前方部南寄りに1段低い平坦面になっています。つまり、これは方形部の中央部分が1段低くなっているということです。そして、その両サイドに2条の溝もあります。あと、葺石は後円部の上段のみに設置をされています。ですから、後円部のほうの下段については、葺

石はふかれていないと考えています。また、テラスの平たん部分よりも上しか埴輪が敷かれていなかったということが分かりました。埴輪は、後円部の墳頂及びテラス、そして方形壇の上に設置がされている状況が確認をされました。そして、先ほど申しあげましたように、後円部に加えて前方部にも埋葬施設が存在する可能性が出てきました。そして、周濠とか外堤というような、周域を囲む溝や土手状のものはないということが分かりました。そして、少し分かりづらいのですが、トレンチ25のところ、図2をご覧ください。ここは、大分以前から、陪塚と言いまして、いわゆる支配者の家臣のお墓ではないかと言われていたところですが、ここも調査しました結果、この古墳とは何ら関わりがないということが分かってまいりました。

そして、築造工程を説明したいと思います。

5ページをご覧ください。これは図の5となります。

ちなみに、先ほど説明いたしました墳頂の復元案につきましては、図4に全て示してございますので、またお読み取りください。

まず、築造工程につきましては、地山を前方後円墳の形に削り出していくということが発掘調査から分かりました。当初の段階から前方後円墳の形を意識していたということが分かりました。この過程がよく分かるものとしまして、8ページの写真の1をご覧ください。これは鳥瞰写真になります。本体がございまして、その周域におかれましてはほぼほぼ平たん面で構成されていることが分かります。このことから、当初から意識をして前方後円墳の形に削り出していることが分かりました。そして、この削り出した上に厚さ40センチ程度の盛土をしております。これを水平にずっと端から端まで盛り土をしている状況が確認をされました。これがいわゆる基底の盛土となります。さらに、後円部や前方部、あと中ほどの平たん面をそれぞれ墳丘状に盛り上げた後に、さらにその間をそれぞれ埋めるように盛土をしている状況も発掘調査から確認をされました。そして、4番目ですけれども、方形壇と呼んでいますが、前方部の端の部分に小さな四角い豆腐のような形のものが乗っている構造になっています。これを方形壇と呼んでおります。主に儀式や祭りをを行う附帯施設となっております。あわせまして、後円部の上段にも盛土をいたしまして、前方後円墳に成形した様子が分かりました。そして、最後に埴輪とか葺石をそれぞれ設置して、スクモ塚古墳の完成となっております。

次に参ります。6ページです。

4番で、調査結果から見たスクモ塚古墳の意義でございます。

まず(1)番目、このスクモ塚古墳は、埴輪とか葺石を備えた県内最大、山陰最大級の前方後円墳であり、大規模な古墳の築造には、多くの人を導入する必要がありましたことから、この4世紀後葉、古墳時代の前期末から中期初頭の益田には山陰地方でも有数の豪族が存在していたことが分かりました。これに伴う説明が図6と図7に示してあります。

この図6です。6ページの下側の図面ですが、これがほぼ同じ時期の大型古墳の分布を示した図面となります。島根県を見ていただきましても、特に石見地方では益田だけ大型古墳があることが読み取れます。実は浜田にも周布古墳という国指定の古墳があるのですが、これは同じ時期ではありましても70メートルの古墳となっております。ですから、中心部はほぼほぼ益田と考えてもよいということが分かります。そして、山口県につきましても、ほとんど発見されていません。そうしたところから、島根大学の岩本先生は、西の拠点として位置づけているという見解をいただいたところです。

そして、この図の7番です。7ページをご覧ください。

これは、あくまでも墳形の格式と序列を示したものでございまして、今まで円墳と見なされていたスクモ塚古墳が一番格式の高い前方後円墳になりましたということを示している図面です。

次に行きます。スクモ塚古墳から出土した埴輪は、大元1号墳という遠田町にございます前方後円墳から出土した埴輪とタイプ、色調に高い共通性がございました。この物につきましては、写真の10番、最後のページに載せております。そのことから、近い時期に同一の製作集団によって製作されたことが分かってまいりました。また、この大元1号墳は、スクモ塚古墳に並ぶ規模の前方後円墳でありましたことから、この2つの古墳の被葬者はほぼ同じ時代に活躍した有力者であったことが分かってまいりました。

また、スクモ塚古墳には、近畿地方の古墳に導入されていた墳丘の築造方法や葺石のふき方、また埴輪の製作技法が見られまして、大和政権との深いつながりが窺えることも分かってまいりました。

そして、古墳時代の益田は、三角縁神獣鏡が出土しました四塚山古墳群に始まりまして、大元古墳とスクモ塚古墳、石見で唯一周溝と外堤を持っている小丸山古墳、そして単龍環頭の太刀等が出土した古墳や4基の前方後円墳を含む鶉の鼻古墳群までございました。図の8番に示している編年表をご覧くださいと思います。古墳時代の前期から大和政権とつながりを持つ豪族が存在しました。よって、大和政権が政治的戦略上、益田周辺に高い関心を持

っていたことが窺えました。

この4つがスクモ塚古墳の意義として提唱したい点です。

最後に、今後についてです。

これまでの調査結果から、スクモ塚古墳は、4世紀の後葉に築造された復元墳丘長約96メートルの前方後円墳ということが判明しました。スクモ塚古墳の基礎情報を収集する発掘調査は本年度で終了いたしますが、今後も古墳の適切な保存や活用に向けた取組を継続していきたいと考えています。

以上で説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。
ありがとうございました。

高市教育長

それでは、本件につきましてコメント、質問等ございましたらお願いいたします。

梅津委員

昭和16年に国の史跡に指定されて、それから67年後にまた県の教育委員会が墳丘の調査を実施して、10年たって今、県内最大の、山陰最大級の前方後円墳ということが認定されたということで、長きにわたって引き継がれたのが、熱意を持って測量を実施されればこそ、そういうことが認定されたと思います。本当にすばらしい、すごいことだと感じます。これは、以前からのまま国指定の中で、前方後円墳ということに置き換えられるという認識でよろしいでしょうか。

山本課長

そうです。この7年間におきまして、国の文化庁や島根県文化財課に助言をいただきながら、専門家の方にも指導者という形で入っていただきまして、調査指導会を何回も開いてまいりました。その中で、前方後円墳として国も認識をしていただいたという判断でおります。

以上です。

梅津委員

分かりました。

大庭委員

このたびの調査で最も大きい前方後円墳が益田にあったということが分かったことを益田市民として大変うれしく思います。ぜひこれをうまく今後もいろいろな地域交流に活用できればと思います。

先般、家のほうに回覧板が回ってきまして、安田公民館のほうから、関西の旅行者が山陰地方の墳墓を見るツアーを企画したいということでした。それで古墳まわりを環境整備してほしいという依頼があったので草刈りをされていました。草刈り後のきれいな姿が白黒写真でしたけども印刷して載せてありました。今後、こういったすごいものが資料的に証明されたということは、胸を張って広報、紹介できると思います。ぜひ長期的に、活用していただきたいと思っています。

それから、これだけの古墳を造ったということは、相当な財力があつたと思います。大元古墳もそうだと思いますが、今でこそ遠田キヌヤの後ろの山の中に隠れて見えませんが、私の予想ですが、多分当時、あそこは木がなくて、遠田八幡宮あたりの海岸線が見えたと思うのです。ですから、外来者が船で来たときに、船からそれが見える。こういうものがあることを誇示するために、あの位置につくったのではないかと思います。ですから、そういった意味でも、外とのつながりも踏まえて、なぜ前方後円墳がそこにつくられたのか、そういったことがどんどん明らかになっていけば、非常に過去の益田も違った姿で再現することができるのではないかと思います。

それから2点目ですけども、大体こういった大きな古墳は、大和朝廷もそうですけども、必ず陪塚があることが知られています。先ほどおっしゃったように王の家来とか家臣、そういった者の墓だと思いますが、このたびの調査については違うとおっしゃったのですが、何かその根拠や理由を具体的にお聞きしたいです。分かる範囲内で結構ですが、お願いいたします。

山本課長

まず、1番目の地域活性化を目指した今後の活用については、こうした成果をもって、まずは子どもたちのふるさと教育のほうに、例えば遠足ですとかそうしたタイミングで、現地にまずは見に行っていていただくことが一番の手だと思っておりますので、そうした仕掛けづくりをどんどんやっていきたいと思っております。

あと、来年度になりますが、説明看板の内容を前方後円墳に変えることに取り組んでまいりたいと思っております。

そして、今度は市民向けに、もう既に全て埋め戻してしまって現地は古墳のままですけども、そうはいつでも関心が高まっていると思いますので、そうした形で、例えば担当者が現地に出向いて説明をするような会を企画したいと思っております。あわせて、シンポジウムや講演会等々を県内の研究者の方ともタイアップしながら、県文化財課ともタイアップしながら、そうした企画を温めていきたいと私自身は思っているところです。これがまず1つです。

そして、大元古墳と併せてお話をさせていただきますが、もともとどうして益田が選ばれたかという点では、教育長の記者会見のときのご挨拶にもあつたのですが、4世紀という時代は大和王権が朝鮮半島に進出したりして、特に朝鮮半島の南部のところと同盟を結ぶことによって鉄資源を仕入れたり、またその權益を中国に認めてもらおうとか、いろいろな海上、国と国との交易がどんどん盛んになりつつあつた時代のようなようです。一方では、日本国内において、そのときは倭と名乗っておりましたけれども、倭国の中におきましてもそ

れぞれ九州や丹後半島、鳥取など様々な地域の豪族がいらっしやっ
て、そうした人々と同盟を結ぶことによって大和王権がどんどん勢
力を拡大していった時代だったことが研究者の研究成果によって
徐々に解明されています。どうして益田がという部分につきまして
は、益田平野がございませけれども、あそこは古墳時代におきまし
てはラグーンと言いまして潟湖、湖であったのです。巨大な湖、自
然の内湾を呈していました。そうしたところから、日本海沿岸にお
いての、例えば日本国内の国と国との海上交通上の利点が高かった
ことが考えられます。そのため、いわゆる戦略上、選択的に展開す
るには重要な地であったことを先生方が指摘をされているところで
あります。そうした意味では、大庭委員さんがおっしゃいましたよ
うに、海から見える位置に古墳を造っているというのが一つの根拠
になるのかと思います。前方後円墳を造るということは、権威を示
すものでもあります。古墳のほうからも海が見下ろせるような場所
を選んで、大元も、そしてスクモ塚も、また鵜の鼻も、古墳を造っ
たのではないかと考えることができますが、今後の研究の進化を待
ちたいと考えております。

そして、最後の陪塚につきまして、これは発掘調査で半分掘りま
した。そうしますと、スクモ塚古墳の本体で見られましたような盛
土の在り方と全然違う盛り方だったようです。それが相当新しい時
代に盛られたものであったことが判明しました。ビニールのような
ものも含まれていることが確認されています。

大庭委員

ビニールですか。ということは、要するに4世紀後葉であります
と古墳時代の前期の後半ぐらいですよ。その後の6世紀や7世紀
などの古墳時代の末期のものじゃなくて、さらに新しいものという
ことですか。

山本課長

全く新しい現代に近いものだったようです。といいますのも、ス
クモ塚古墳の周辺においては、瓦工場がたくさんございました。土
を採掘しており、実はスクモ塚の古墳の一部も削られています。削
った分の土を盛っているのかもしれないと考えていました。以上で
す。

大庭委員

それで、今お話の中でありましたように、確かに潟湖であるなら
ば、当然明らかに海から見えると考えられます。それから、小丸山
も、木を伐採すれば明らかに権力者の墓が見えるということで、こ
ういったものが益田にあることを外来者に示すためにつくったとい
うことは、本当に納得できるご説明だと思います。

それから、前方後円墳がこうしてできることは、大和王権の力が
及んでいた証拠だと思います。例えば出雲の国などは、古墳時代よ

りもっと前の古い時代に山陰地方独特の四隅突出型古墳というのがありました。だけども古墳時代前期になると、これが急激に廃れますよね。つまり、大和王権の勢力が影響して、それに代わるものとして前方後円墳が出てきたということで、先ほどおっしゃった説明が十分成り立つのではないかと私は思います。

以上です。

高市教育長
中野委員

ありがとうございます。

失礼いたします。私、時々この前のほうを通ることがございまして、保存、保管のところがすごく気になるところでございます。先ほど看板のほうを更新されるということを聞いていますが、柵もメッシュフェンスがあったように思いますが朽ちており、要は柵としての機能がなくなっているような状況になっていましたし、あと雑草や雑木も結構あります。以前、古代ハスということで大きく取り上げられたところもありましたが、古墳の近くです。そこのハスも大変寂しいような状況になっています。ですから、こうして関心が高まるわけなので、保存、保管というのを、しっかり考えていかないといけないと思いましたが、コメントをさせていただきました。

以上でございます。

山本課長

ご意見ありがとうございます。委員さんがおっしゃるとおりでございますので、引き続き地元の方とも協力しながら環境整備のほうを進めていきたいと考えています。特に草刈りが非常に大変ですが、進めていきたいと思っています。ただ、スクモ塚古墳というのは実は全て民地になっております。指定範囲におきましては、もちろん市のほうの管轄で上げていただいておりますが、指定区域外の部分につきましては民地ということで、実は直接なかなか手が出せない部分もございます。所有者の方とも話し合いながら、きちんとした方向に持っていけるように話ができればと私は考えているところでございます。ありがとうございます。

中野委員
齋藤委員

よろしく申し上げます。

4世紀というと、中国から漢字が入ってくる前後だと思います。まだしっかりした文字がなかった時代と言えますが、木簡や絵などの発見はあったのでしょうか。

山本課長

ご意見ありがとうございます。古墳においては、大体埋葬施設を発掘調査しましたら副葬品が伴う場合があるのですが、このたびは全く発掘調査で出てきておりません。

齋藤委員
山本課長

伴うものはなかったのですね。

なかなか伴うものということが説明し難いので、前方後円墳とい

う形でしか現時点では示せません。申し訳ありません。

齋藤委員

ここには何回か行ったことがあります、すぐそばに家がありますし、入り口は鎖が張ってあって中にはもちろん入れません。下から見たのでは、これが前方後円墳だと言われてもその実態がよく分かりませんが、上空からの写真を見て、こんなに立派な古墳だったのかと改めて思いました。

先ほどおっしゃったように、どなたかに解説をしてもらったりして、市民に対する理解を深める方策を考えることが大切になってきますね。

大庭委員

再度の確認です。なぜ埋葬場所、あそこは手をつけないのでしょうか。将来的には手をつける予定がありますか。

山本課長

お答えいたします。

なかなか全国的に、国の史跡において埋葬施設を掘る、調査をするというのは、なかなか事例がないといえますか、発掘調査そのものが実は破壊行為になります。文化庁の許可を得るためには、掘るだけではなくて、掘った後どういう処理をするのかなど、非常にハードルが高い手続がございますので、現時点では将来においても調査する予定は今のところはありません。それに代わる地中レーダー探査をさせてもらって、成果としてお示ししたことをご理解いただければと思います。

大庭委員

ロマンを残すということですね。分かりました。

高市教育長

ありがとうございます。それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

○報第27号 旧島田家活用に伴う益田公民館機能移設について

高市教育長

続きまして、報第27号旧島田家活用に伴う益田公民館機能移設についてです。それでは、事務局より説明をお願いします。

大畑推進監

お手元の資料をご覧いただけたらと思います。

これは時代が遡り、数年前から動いていたことを含めまして経緯のご説明、それから現状決めていること、それから今後のことにつきましてご説明します。

平成元年度、益田公民館の利便性向上と益田地区の歴史を活かしたまちづくりのために、市が主体となり旧島田家を改修し、公民館機能移設と大正大学との連携等を行う計画を進めておりました。市と民間とそれから大正大学と一緒にあって、あそこをリニューアルして活用していこうという案ができました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症等々、それから財政等々の補助金の関係で、最終的にで

きない、話が進まない状況が続いておりました。

令和2年度、益田市が日本遺産に認定されて、益田地区を日本遺産の11の構成文化財がある地区とし、観光拠点とし、旧歴史民俗資料館、益田市立歴史文化交流館と今リニューアル工事をする事になりました。同時に益田地区が、旧島田家の建物がこのまま廃墟となるのかということも課題として改めて浮かび上がった次第でございます。

令和4年6月3日、今年度、益田地域づくり協議会並びに益田地区自治会連合会より、旧島田家活用について要望を行いました。内容につきましては、民間業者が旧島田家を改修し、益田地区地域振興等々を含めてぜひ公民館機能を入れていただき、公民館の活動並びに歴史を活かしたまちづくり、日本遺産推進に役立てていただきたいという要望がございました。この要望を受けまして、活用について前向きに検討するという事となりました。

このような状況から、様々なところと調整しながら、10月5日の政策調整会議におきまして公民館機能の移設について検討し、機能移設が妥当だろうと判断し、これから相手方と賃料交渉等を行う事となっております。スケジュールにつきましては、相手方の工事の改修等々で決まりますが、最短では4月には完成させて入っていただけるようにしたいという意向ではありますが、今資材等の入手も大変な時期でもございますのでまだ確定はしておりませんが、相手方としては賃料交渉が確定した暁には早いところで改修工事を終了し、新たな拠点として活用できるように整えたいと返事をいただいております。現在、まだ賃料交渉は最終段階に入っておりませんので、また状況につきましてはご説明をさせていただきながらと思っております。

これにより益田公民館、旧耐震設備でありますので、耐震化のあるこの島田家は昭和59年12月にできておりますので新耐震であるため、新しい公民館機能をその中に入れると考えています。ただ、広い場所でございますので、いろいろな人が集まる施設として活用していきたいと相手方から申出があり、地域にとりましてもぜひそういう地域の拠点としてさらに盛り上げをしていきたいと地域の中でも話し合っておられるところです。今月、また地域と話し合いながら、しっかり丁寧に積み重ねをしていきたいと思っております。また教育委員会にてご報告をさせていただこうと思っております。

以上です。

高市教育長

ありがとうございました。

それでは、本件につきましてご質問、コメント等ございましたら

お願いいたします。

梅津委員

平成天皇皇后両陛下もお泊まりになった由緒ある旅館でもありませんし、閉鎖されたままの状態を見るにつけ、とても残念に思っております。このたび、益田地域づくり協議会と益田地区自治会連合会によって、公民館機能を旧島田家旅館に移転するということが、とても喜んでおります。市主体の整備は中止されるということですが、その後、どのような関わり方を市はされるのか疑問に思いました。

大畑推進監

このたび、民間業者の方が全て改修するということになっておりますので、市としましては賃料を払ってそこに公民館が入るということで考えています。ですので、改修費等々は市から出さないということで考えております。

梅津委員

ありがとうございました。

大庭委員

その賃料ですけども、大体どのぐらいなのでしょう。なかなか難しいでしょうけど、相当大きな建物になりますよね。

大畑推進監

全体ではなく、3階は宿泊機能を残しておきたいと考えておられるそうです。ですので、1階、2階の一部分を、現在の公民館面積より若干縮めた形で今回お借りしようと考えています。賃料としましては、数字は申せませんが、もしも今の公民館を新たに建て替えた場合よりも、大体20年間でそれより安くなるように積算をするべきだと市としては判断しているところです。最終的にはそれより安い金額で交渉し、契約できるような準備をしていきたいと思っています。

大庭委員

両方が Win-Win になれば非常にいいですね。

高市教育長

ありがとうございます。それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

高市教育長

それでは、以上をもちまして定例会を終わります。

次回は11月22日に定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

=終了時間 16時15分=

